

印西市 道作1号墳 現地説明会資料

主催：印西市教育委員会生涯学習課・（公財）印旛郡市文化財センター

平成29年8月26日（木）

資料作成：（公財）印旛郡市文化財センター

・周辺の古墳群



印旛郡市文化財センター『道作1号墳（第2次）』より

・各古墳の内容

道作古墳群 前方後円墳7基・円墳13基

駒形古墳 前方後円墳2基

小林古墳群 円墳4基 うち鶴塚古墳からは壺形の特殊埴輪が出土

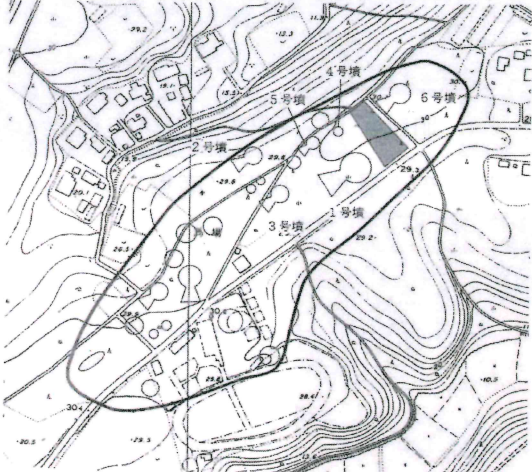


図2

・道作古墳群の各古墳の大きさ

古墳番号	規模（全長）	墳形	備考
1号墳	46m	前方後円墳	下総形円筒埴輪・周溝有・埋葬施設有
2号墳	36m	前方後円墳	
3号墳	30.5m	前方後円墳	下総形円筒埴輪
4号墳	11m	円墳	周溝有
5号墳	15m（推定）	前方後円墳	周溝有
6号墳	37m	前方後円墳	周溝有・鉄斧出土

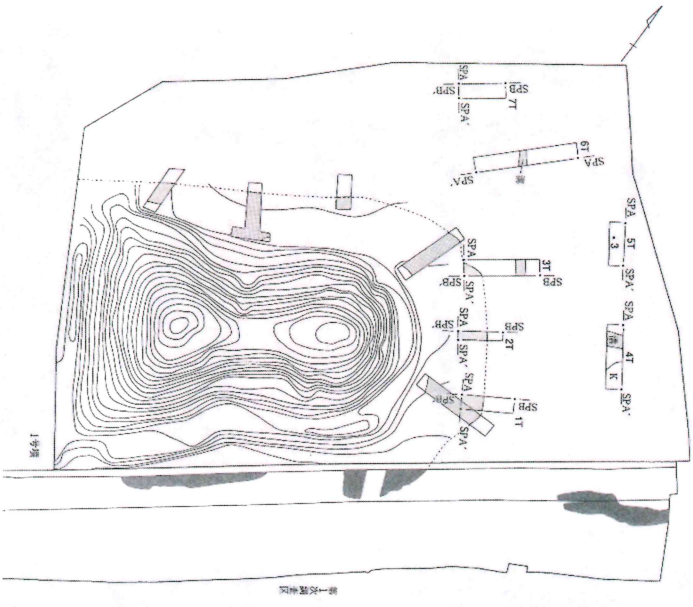


図3 道作1号墳周溝範囲

（印西市と印旛郡市文化財センターの調査結果による）

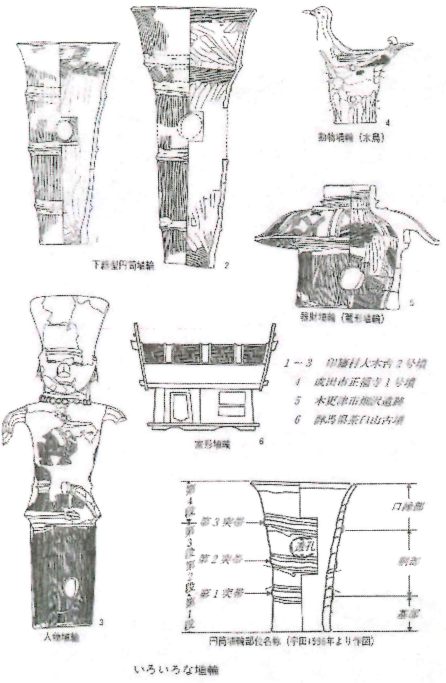


図4 埴輪の種類

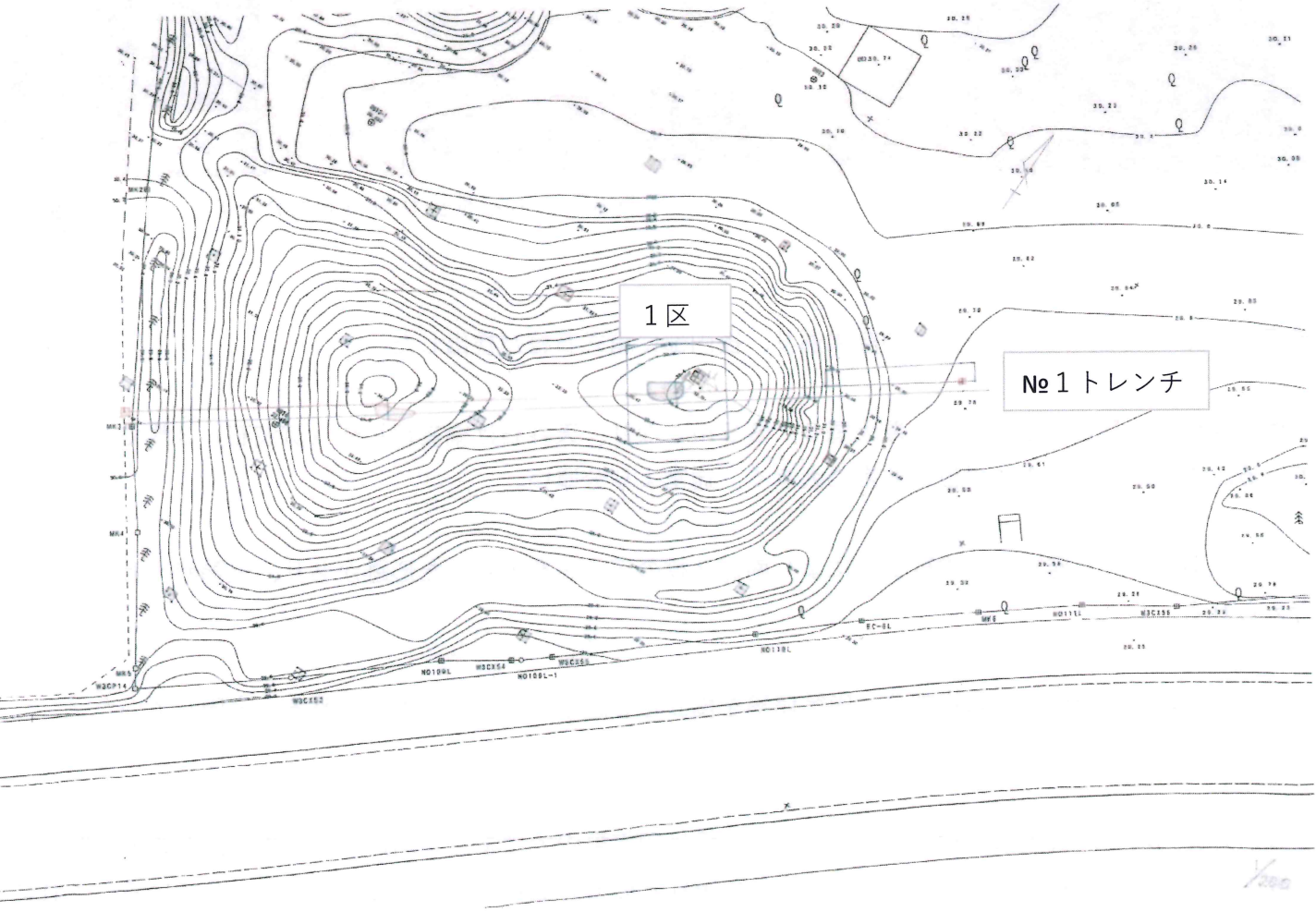


図5 今回の調査範囲と埋葬箇所想定範囲（地中レーダー探査結果による）※墳頂の色がついた箇所



写真1 主体部検出状況（南西から）



写真2 天井石検出状況（南西から）



写真3 天井石接写



写真4 天井石検出状況（北西から）



写真5 側石検出状況（北東から）



写真6 天井石検出状況（北西から）



写真7 No.1 トレンチ
硬化面検出状況（北東から）



写真8 No.1 トレンチ土層堆積状況（南壁）



写真9
No.1 トレンチ完掘状況

○調査成果

- ・平成28年度に実施した地中レーダー探査の結果通り、後円部に箱式石棺が検出した。
- ・検出した石棺の規模は、長さ約2.2m、最大幅0.85mとなり、天井石は絹雲母片岩（筑波石）3枚で構成されている。また、天井石1枚単位が非常に大きく、通常より分厚い。
- ・未盗掘の可能性があるが、土層断面の堆積状態により南側2枚の天井石を動かした形跡があり、追葬が行われたことが考えられる。
- ・No.1 トレンチの土層堆積状態から、埴裾部分に円筒埴輪を樹立させ巡らせていたと考えられる。全周していたかどうかは、今後の調査によって明らかになると思われる。
- ・埴輪を有する前方後円墳で、墳頂部に箱式石棺を設ける古墳は印旛郡内ではまだ類例がない。また、この埋葬箇所と合わせ過年度の調査では、人物や馬などの形象埴輪の他に家などの器財埴輪と思われるものも出土している。これにより従来まで6世紀後半と考えられてきた道作1号墳は、6世紀中頃に築成された可能性が出てきた。さらに石棺の天井石も分厚いなど、被葬者はかなりの有力者であると思われる。